

# 教育研究業績書

令和 6年 3月 27日

氏名 山本 理

教育上の能力に関する事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例 ①口頭諮問と学習観のカウンセリングを組み合わせた大学入試指導 ②博学連携プロジェクトの企画と実施	①2019年1月～至現在 ②2022年4月～至現在	①株式会社 LearningCity にて、口頭諮問を中心とした講座「生物基礎・生物」と学習観のカウンセリング（『認知心理学は教育にどう貢献するか』（市川伸一,2017）などを参考）、進路指導や学習進捗管理を実践している。 ②中高生の探究学習の成果を地域の博物館で展示し、地域住民からフィードバックを得ることで、中高生の仮説設定における合理性を高める試みを提案・企画・実践している。山形県下の博物館、小学校、中学校、高校、教育委員会等の関係各所と連携を取りながら進化した（日本環境教育学会 第17回・18回関東支部大会 発表資料）。
2 作成した教科書、教材 ①生物学習ノート（現行版 ISBN:978-4410280931） ②リード Light ノート生物基礎（現行版 ISBN:978-4410283444） ③スタディアップノート生物基礎（現行版 ISBN: 978-4410280658） ④視覚でとらえる フォトサイエンス生物図録（現行版 ISBN:978-4410281679） ⑤指導者用デジタル教科書改訂版 生物（2018年3月発行）	①～⑤ 2015年4月～2018年12月の間に担当 ⑥2019年1月～至現在	①～⑤高校生および高校教師向け教材。①～④は書籍教材で、⑤はデジタル教材。編集者として企画・制作・改訂に関与した。著者原稿の内容検査と文章校正、図版の下絵作成、一部紙面の組版、一部内容の執筆、デジタル教材に収録するアニメーション原案の作成ならびに映像資料の選定、教科書コラムの英訳に係る翻訳者との折衝などを担当した。
3 その他		なし
職務上の実績に関する事項	年月日	概要
1 資格、免許 ①2級ビオトープ施工管理士（日本生態系協会 登録番号：Q097151） ②科学技術コミュニケーター（北海道大学 CoSTEP）	①2014年2月22日取得 ②2020年3月15日取得	①日本ビオトープ管理士会近畿支部および関東支部に所属。自然観察指導員として関与。主に草本植物の分類や生態、外来生物の影響についての解説、フィールドにおけるこども達との交流ならびに、こども達の安全確保を担当している。 ②北海道大学が提供する科学技術コミュニケーター養成講座 CoSTEP（選科 B：サイエンスライティングコース）を修了。現在はこれを活かし、株式会社 LearningCity にて、大学受験生対象の医療系小論文指導等を実施している。
2 特許		なし
3 その他 ①日本ビオトープ管理士会近畿支部研修会 口頭発表 ②日本環境教育学会 第33回年次大会 口頭発表 ③日本社会教育学会 第69回研究大会 口頭発表 ④Universiti Tunku Abdul	①2018年6月30日 ②2022年8月27日 ③2022年9月18日 ④2022年9月24,25日	①タイトルは『教育課程と自然観察プログラム』。ビオトープ管理士資格をもつ自然観察指導員向けに、幼稚園教育要領や小学校学習指導要領の中での環境教育の扱いについて紹介し、自然観察会に参加する幼児・児童が受けている教育とのスムーズな接続を意識した自然観察会の在り方について提案した。 ②,③タイトルは『学校理科教育と自然科学系博物館との連携に関する研究～山形県 西川町立自然博物館の事例～』。山

<p>Rahman Environmental Education Workshop 口頭発表 (英語)</p> <p>⑤日本環境教育学会 第17回関東支部大会 口頭発表</p> <p>⑥山形県大井沢自然博物館企画展</p> <p>⑦日本環境教育学会 第34回年次大会 口頭発表</p> <p>⑧日本環境教育学会 第18回関東支部大会 口頭発表</p>	<p>⑤2023年3月18日</p> <p>⑥2023年6月17-18,24-25日</p>	<p>形県大井沢地区で実践されていた「自然学習」を、今日的な博学連携の枠組みの中で再評価する試みについて発表した。</p> <p>④タイトルは『The Role of Museums in Kindergarten Education』。日本環境教育学会会員として、トウクアブドゥルラーマン大学との国際交流協定のもと、マレーシアで幼児教育に関わる方々(幼稚園教諭や大学生)を対象にした日本の環境教育を伝えるワークショップで研修担当として参加した。国立科学博物館や大阪市立自然史博物館の子供向け展示について、インターネット上に公開されている3Dビューを用い、ワークショップ参加者とともに見て回った。</p> <p>⑤タイトルは『SDGs時代の「地域づくり教育」の拠点としての博物館の可能性について』。②,③を踏まえ、本紙「教育方法の実践例」に記載した実践について発表した。</p> <p>⑥タイトルは『高校生と考える 未来創造プロジェクト展』。本紙「教育方法の実践例」に記載した博学連携プログラム。企画・設営ならびに、『探究活動とは何か』と題した参加者向け趣旨説明を行った。</p> <p>⑦タイトルは『SDGs時代における「地域づくり教育」拠点としての博物館の可能性について』⑥の取り組みに対して地域住民から得られたコメントを紹介した。</p> <p>⑧タイトルは『「這い回らない」探究的な学びを目指して 大井沢自然博物館における「自然学習」の到達点と今日的な展望』。⑥の取り組みに対する社会教育的評価を、公民館職員および中学校職員に依頼し、集計した結果を発表した。</p>		
著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月日	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
1 著書				なし
<p>2 学術論文</p> <p>①【学位論文】輸入コムギに混入したカラスムギ (<i>Avena fatua</i>) 種子の国内での生育可能性および国内で見られるカラスムギの種内変異について</p> <p>②教育成果を用いた評価方法—事後課題シートの活用事例—</p> <p>③幼児・児童の表現活動における博物館の可能性</p> <p>④保育所での木育における学生の相互評価に関する一考察</p> <p>⑤地域自然博物館を拠点とした高校生と小中学生・住民との探究活動の取り組み</p> <p>⑥探究のミニマム</p>	<p>①単著</p> <p>②共著</p> <p>③単著</p> <p>④単著</p> <p>⑤単著</p> <p>⑥単著</p>	<p>①2015年3月</p> <p>②2023年4月10日</p> <p>③,④2023年7月17日</p> <p>⑤,⑥2024年3月1日</p>	<p>①京都大学</p> <p>②農学・環境系の教職実践研究 7巻1号</p> <p>③,④農学・環境系の教職実践研究 7巻2号</p> <p>⑤,⑥農学・環境系の教職実践研究 8巻1号</p>	<p>①輸入コムギに混入し穀物輸入港を侵入経路とする外来雑草であるカラスムギについて、国内の個体群と形態や開花生理について比較し、外来個体の侵入後の定着可能性について考察した。</p> <p>②大学教育における教育成果について、ルーブリック評価の活用ならびに学生同士の相互評価の活用を通じて、学生にどのような変化がもたらされるかを観察、検証した結果を記載した(7ページ。板倉浩幸氏との共著。共同研究につき本人担当部分抽出不可能)。</p> <p>③山形県大井沢自然博物館で行われていた博学連携実践の成果物である文集『峠の小鳥』に収録された作文を分析し、博学連携における幼児・児童の表現活動の展開の可能性について論じた(6ページ)。</p> <p>④学習者同士の相互評価についての先行研究を洗い、当該議論において学習者らの思考の過程に着目した相互評価の在り方についての知見が少ないことを鑑み、保育所における「木育」に参加した学生らの成果物を利用した、思考過程の相互評価を試みた(5ページ)。</p> <p>⑤児童生徒が学校教育委の中で行った探</p>

## No. 3

エッセンシャルズ				究活動の成果物を「展示」ととらえ、様々な社会集団に属する人間同士のミュージアムコミュニケーションを創出する場としての地域博物館の機能強化の試みについて論じた（12 ページ）。 ⑥昨今、ますます着目を集める「探究的な学び」について、パースの探究論をベースに何をもって“よい”探究とみなすかという視点を整理した（9 ページ）。
3 その他				なし